

# 夜間、実弾訓練を強行



北海道・矢臼別演習場

## 市民ら監視で確認

北海道の矢臼別演習場（別海町、豊浦町、深川町）で始まっている米海兵隊の実弾射撃訓練（25日から2月4日まで）に対して、「矢臼別平和委員会」や「米軍来るな！ 鉄根連絡会」、近隣住民の連合の監視行動によって、従来の訓練とは異なる様相が確認されています。

今回の訓練は20回目。過去には着弾地外で火災を起こし、原因究明も行わないまま訓練を続けた事例も数回あり、地域住民の不安を増大させています。155mm榴弾砲も持ち込まれています。

監視行動は、ピース矢臼別（川瀬牧場）に

本部を置き、訓練開始前の24日から永点下の

夜間訓練で打ち上げられた照明弾=30日夜、北海道ピース矢

臼別から撮影（矢臼別平和委員会の寺川真幸理事の提供）

日中の訓練でも、これまで発射音から着弾音が鳴り響く日もあり、「これまでにない訓練が行われているのでは」と監視行動の参加者は懸念しています。近隣に住む住民は訓練期間中の「11日間毎日アクション」として、「武力で平和つくれない」と書いたフレーズを掲げて国道でサイレントスタンディングを行っています。

中を通じて油まり込みで続けられてきました。30日には、一帯が静まりかえっていた午後7時50分ごろから19発の砲弾音が鳴り響き、6発の照明弾が夜空に打ち上げられるなど、中止を繰り返し要望してきた夜間訓練が行われました。